

梶田叡一著「教師の専門性と大学の役割 IDE, 現代の高等教育 - 大学と教員養成 - 」

2009年8-9月号を読む

1. 学校教師に不可欠な「絶えざる研修」

(1) 学校教師には絶えざる研修が不可欠である

(2) 教師としての資質の根底にあるもの

使命の自覚

職務遂行の力量

2. 学校教師が「絶えざる研修」を行うための諸方法

- 学校教師がその職にありながら学びつづける(OJT)のために -

(1) 日常の自己研修

- 日常生活の中で時間を見つけて -

本や資料を読む

パソコンで資料を検索

先進校を視察

講演会を聴講

(2) 自主的研究会への加入・参加

地域でのサークル的な研究会への参加

地域を越えた拡がりをもつ研究会への参加

(3) 国や教育委員会等が設定した研修会への参加

国が設定した

(ア) 中央研修

(イ) 特定課題に関する研修

教育委員会が設定した

(ア) 初任者研修

(イ) 10年次研修

(ウ) 管理職研修

(エ) 特定課題に関する研修会

(4) 2009年度から実施される10年に一度の免許更新講習の受講

30時間の講習

受講後の試験に合格しないと、教員免許は取り消される  
目的は、教員として必要な知識や技術等のリニューアルを図るもの

(5) 大学院等への入学

3.(1) 教員の「使命感」や力量の向上のために最も必要なことは、現職員の一層の奮闘努力である。

自分の教室での活動を通じて、児童生徒に力をつけること

人間的に望ましい育ちを実現すること

└───> 以上の「結果」を出さなくては、どんなに弁解しても、主張しても無駄である。

(2) こうした方向に向けての「使命感」とそれを現実の結果として実現する「力量」が教師という職に不可欠な条件である。

(3) このことを事あるごとに再認識する必要がある。

P21 ~ 24

[ コメント ]

兵庫教育大学学長の梶田先生から教えて頂くことはいつも大きい。小中高校などの学校教師に限らず、学習塾、予備校は勿論のこと大学や大学院で教える人も皆、使命を自覚、自ら力量向上のために「絶えざる研修」を至上命題とし、少なくとも日常の自己研修と自主的研修会への参加に励むべきと考える。

- 2009年8月24日林明夫記 -